

「2021年 私のおすすめ天文現象」

桑田直宏

2020年、地上はコロナ禍に席卷されてしまいましたが、星空は火星大接近やネオワイズ彗星の突然の出現で私たちの心を癒し、楽しませてくれました。

竹内まりあの名曲「人生の扉」の歌詞に、「陽気にはしゃいでいた 幼い日は遠く 気が付けば 五十路を過ぎた私がいる 信じられない速さで 時が過ぎ去ると 知ってしまったら・・・」「満開の桜や色づく山の紅葉を この先いったい何度 見ることになるのだろう・・・」という一節があります。

最近の私はこの心境になっていて、次の火星大接近は見ることができるだろうかとか、ふたご座流星群を撮影しながら、あと何度観ることができるだろうかと思うようになりました。

2021年にぜひ見たい天文現象ベスト3

5月26日の「スーパームーン皆既月食」

今年は月が一番地球に接近するタイミングで皆既月食になる「スーパームーン皆既月食」です。大きな月(月食開始は18時44分)が昇っているところを姫路城と一緒に多重撮影や空の暗い場所で皆既の月と星空を撮影するのもおもしろいかも。

小さな望遠鏡で月の色の変化も楽しもうと思っています。



8月12日～13日のペルセウス座流星群

3大流星群のひとつ、8月のペルセウス座流星群が極大の時刻が13日4時となっていて、多くの流星が期待できそうです。月明かりの影響もなく、大変良い条件となっていますが、例年8月10日を過ぎる頃から太平洋高気圧が弱まり、雲が出やすくなります。暑い夏になることを期待しています。

私は播磨自然高原で観望と撮影を計画しています。

11月19日の部分月食(月出帯食)

日本全国で見られる部分月食ですが、月のほとんどが地球の影の中に入り込む、「深い」部分月食になります。どんな色の変化になるのか観望してみる価値がありそうです。

また、部分食が始まって月が出てくるので(月出帯食)、風景と一緒に撮影するのもいいかも。